

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	橋爪愛乃	学校名	東京都内公立中学校
担当教科等	国語・道徳・総合	対象学年（人数）	1年1組
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年11月～12月（6時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：道徳・国語	
2. 単元(活動)名：話題や展開を捉えて話し合おう	
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「SDGs 17の目標について自分たちができる具体的な行動を考えよう。」 単元目標：日本や世界が抱える問題に対して自分たちができる具体的な行動を考えよう 関連する学習指導要領上の目標：話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 【道徳の内容項目】 C主として集団や社会との関わりに関すること（18） 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 ・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。[情報（2）ア]
	②思考力、判断力、表現力等 ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。[A話す・聞く（1）オ]
	③学びに向かう力、人間性等 ・積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 興味のある新聞の記事を比較する宿題から生徒たちが平和（ウクライナ問題など）や環境問題（地球温暖化など）、社会問題（貧困問題、入試における男女差別など）に興味をもっていることが分かった。これらの内容はSDGsの17の目標にも関連している。日本や世界が抱えている問題に向き合い、解決策を考える活動を通して社会の出来事を他人事ではなく、自分に関わる出来事として考えさせたい。 【単元の意義】 様々な問題が起こる現代において、問題を解決するには一人ひとりが課題意識をもって自分のできることを行動することが大切である。具体策を考え、話し合う活動を通して、生徒のSDGsに対する意識を高め、将来、問題に対応し解決できる人材を育成する。 【生徒観】

	<p>生徒は小学校時に、SDGsについての授業を受けたことがあり、SDGsマークを知っている生徒が多い。しかし、SDGsの17の目標の具体的な解決策については、普段の生活において意識する機会は少ない。</p> <p>国語に対する興味・関心は高く、自分の考えを積極的に表現しようとしているが、うまく文章にまとまらないときがある。また、大勢の前で自分の考えを発表するのは、苦手な生徒が多い。今回は、小集団で話し合いを行い、SDGsの17の目標の手立てから自分たちができることを考える。</p> <p>【指導観】</p> <p>現代の社会には、貧困・環境・労働など様々な問題がある。生徒たちはそれらの問題を理解しているものの、なかなか自分事として考える機会が乏しい。また、食糧危機などの貧困問題や労働問題などは発展途上国の問題として意識されがちだが、日本を含む先進国においても、「フードロス」や「経済格差」などが問題となっている。夏休みに授業実践者が参加した「教員のためのSDGs研修」の研修先での課題を考えさせ、日本が抱えている問題の現状を伝えるとともに、JICA出前授業や国語の授業における話し合い活動を通して生徒に具体的な解決策を考えさせたい。</p>
--	---

6. 単元計画 (全6時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 道徳 ① (11 /14 ～ 11/1 8各 クラ ス実 施)	18 国際理 解、国際 貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて知ろう ・日本や世界が抱える問題について考えよう ・多文化共生の解決策を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsとは何か。 ・SDGs 17の目標について説明。 ・「教員のためのSDGs研修」研修先のフォトランゲージを元に日本のどこの風景か？SDGsの何番と関連しているのか（どのような問題を抱えているのか）考える。 ・生徒が自分だったら何をするか考える。 →芝園団地での解決策（自治会への外国人居住者の参加や大学生を交えた地域行事の開催など）を紹介。 ・多文化共生に向けて自分ができることは何か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTube 国連WFP「SDGsって何だろう？(学生向けバージョン)」(7:35) ・ユニセフ『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』 ・研修写真等
2 総合 ① (11 /24 実 施)	・JICA出 前授業	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力・世界の国の開発課題について知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外協力隊経験者の方に話を聞き、国際協力について知る。 ・開発課題について知る。(内容は国際協力・開発課題について) <p>講師：青年海外協力隊OB 石島裕太 氏</p>	JICA 出前授業

			内容：ケニアでの経験を経て思うこと	
3 国語 ①		<ul style="list-style-type: none"> ・「良い話し合い」について考えよう ・話し合いの基礎知識を確認しよう ・話し合いの練習を行う（ブレインストーミング） 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの基礎知識を確認する。 ・話し合いのルールの確認を確認する。 ・話し合いの練習を行う。 <p>方法：ブレインストーミング 目標：「クラスをよりよくするためにできること」のアイデアをできるだけ多く挙げて、グループ化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書「光村 国語1」 <p>【使用】ロイロノート</p>
4 国語 ②		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの練習を行う（ペイオフマトリクス） ・自分の意見と、その根拠をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回出た意見を用いて、話し合いの練習を行う。 <p>方法：ペイオフマトリクス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を使用し、問題の実情や解決策に関連することを調べる。 ・自分の一日を振り返り何か変えられる行動はないか考える。 ・それぞれの意見の根拠をまとめる。 	<p>【使用】ロイロノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニセフ資料 ・JICA資料 <p>【宿題】自分の一日の中で変えられる行動の写真を撮影してこよう。</p>
5 本時 国語 ③ (11/30 実施)		<ul style="list-style-type: none"> ・「ペイオフマトリクス」を用いて、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標と役割を確認し、意見を出し合う。(自分が撮ってきた写真を紹介する) ・一人一台端末の共有ツールを使い、意見を共有する。 ・「ペイオフマトリクス」を用いて、意見を効果の大小(より多くのSDGsの目標を達成できる)や簡単にできるかなどの観点で評価し、より良い具体策にするにはどうすれば良いか班の中で意見を出し合う。 ・班の中で一番有効だと考えられる具体策を3つ決める。 	<p>【使用】ロイロノート</p>
6 国語 ④		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果を報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・結論とその根拠を伝える。(ワールドカフェ形式) ・他の班の意見を聞き、改めて自分の考えをまとめる。(SDGs 	<p>【使用】ロイロノート</p>

	・話し合いや報告を通して考えたことをまとめる。	行動宣言の作成)	
--	-------------------------	----------	--

7. 本時の展開 (3 / 4時間目)

本時のねらい：自分の意見をグループ内で発表し、話し合いをして結論をまとめよう。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (15分)	・自分が撮ってきた写真を紹介する。	・前時において、教員が写真の例を示しておく。 ・発表時間を区切り、班員全員が発表できるようにする。	・Chromebook
展開 (25分)	・一人一台端末の共有ツールを使い、意見を共有する。(7分) 目標・役割の確認(1分)→個人で書き込み(2分)→班で発表(4分) ・アイディアを絞る(6分) ・「ペイオフマトリクス」を用いて、意見を効果の大小(より多くの目標を達成できるか)や簡単にできるか(持続可能なものか)などの観点で評価し、より良い具体策にするにはどうすれば良いか班の中で意見を出し合う。(12分) ・班の中で有効だと考えられる具体策を3つ決める。(基本的にはペイオフマトリクスの右上にあるものを選ぶのが好ましい)	・共有ノートを用いて班員がお互いの意見を共有する。 ・共有ノートを用いて意見の分類やより良い意見を考える。	・ロイロノート
まとめ (10分)	・話し合いの振り返り		

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性
評価規準	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。	・積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
評価方法	・ワークシート内の生徒一人ひとりの意見	・ワークシート ・発言	・ワークシート ・発言

		・ 観察	・ 観察
--	--	------	------

9. 学習方法及び外部との連携

- ・ 一人一台端末を使用し、意見の書き込みおよび共有を行う。
- ・ JICA 出前授業を実施し、国際協力や世界の開発課題について考える。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

【学校内】

- ・ 本授業の実践および発表
- ・ JICA 横浜への訪問（校外学習）
- ・ JICA 出前授業の実施

【学校外】

- ・ 本研修の報告会

【自己評価】

11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの手法やテーマの設定の仕方。 ・ SDGs を幅広い視点で考えるための知識や情報の与え方。 ・ 研修で見たこと学んだことをどう指導案に落とし込むか。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペイオフマトリクスを用いて、より効果の大きく（様々な目標を達成でき）、簡単にできる具体策を班での話し合いを通して考えさせた。 ・ 国連の動画や、ユニセフ・JICAのHPの紹介、またJICA出前授業の実施や本研修での芝園団地の様子の報告など様々な情報を与え幅広い視点でSDGsを捉えるきっかけ作りを行った。
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒同士が主体的に話し合いをしていた。また、話し合いや発表において、教員が考えていた以上の働き（見やすくするための工夫や伝わりやすくするための工夫など）を行っていた。 ・ 出前授業や道徳での多文化共生についての学びを通して、SDGsで支援する対象について具体的にイメージしながら、行動を考えることができた。（ケニアの人々や外国人など）
14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs を自分の生活と結び付け、どのような行動を取れば目標達成に繋がるか、考えていた生徒が多かった。 ・ 出前授業でケニアの人々の生活やエコロジカルフットプリントの話をしていただいたため、それに関連する具体的な行動や思いについて考えている生徒が多かった。 <p>（右の文章：生徒の感想より） （次ページの画面：授業で話し合いに用いたペイオフマトリクスと決定した行動宣言の画面）</p> <div data-bbox="949 1635 1444 2161" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私は環境とジェンダーの二つの問題について自分ができることを考えた。今回の授業でSDGsについてより詳しく知ることができた。そして、今私たちが抱えている問題はまだまだたくさんあるということを知った。それらの問題を解決するためには、まだ大きな取り組みが必要だとしても、持来世界を担っていく人々がそれぞれの問題について考え、自分の意見を持つことが大切なのだと思った。またSDGsの目標の一つでもあるグローバルシップの活性化も大切だと思う。SDGsの目標は一部の国だけのものではなく、世界全体の目標である他国と協力して問題を解決するためには他国についての理解を深めることが必要なのではないだろうか。今回の授業をきっかけとして世界の様々な国の歴史や文化について学び世界が抱える問題について考えていきたいと思う。</p> </div>

SDGs 17の目標について自分たちができる具体的な行動
～誰一人取り残さないこと・より多くの目標を達成できること～
のアイデアを3つ考えよう。

例

SDGs 17の目標について自分たちができる具体的な行動
～誰一人取り残さないこと・より多くの目標を達成できること～
のアイデアを3つ考えよう。

行動宣言

例

<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今回の研修（7月の事前研修～事後研修）を通して、授業者自身が様々な視点からSDGsについて学ぶことができた。難民問題、多文化共生、外国人生徒のアイデンティティの確立、地方創生、震災教育など普段の勤務では触れることのできなかつた物事と関わり、他の参加者との対話を通して深く考えることができた。</p> <p>その一方で、実地研修で見たもの、学んだことが多すぎてそれらを全て授業に落とし込むのは難しく、苦慮した部分でもある。結局、授業者自身にとって、これからの未来を担う中学生の生徒たちに特に考えてほしい、SDGsの視点と多文化共生に絞って今回は研究授業を行うことにした。結果、普段の自分たちの生活とのつながりを意識しながら、具体的な行動を考えられていたと思う。</p> <p>今回の研究授業では本研修で学んだこと（SDGsや多文化共生）のみならず、今年度に他の研修で学んだICTの活用や発表方法などの実践を行った。授業者自身がまだまだ至らない部分も多かったが、生徒が主体的に物事を考える良いきっかけになったと思われる。今後も新しいことに挑戦する姿勢を失わず、生徒とともに学び続けたいと感じた研修であった。</p>
-----------------------	--

使用した教科書・単元名：光村図書「国語 1」単元名「話題や展開を捉えて話し合おう」

参考資料：・YouTube 国連WFP「SDGsって何だろう？（学生向けバージョン）」

- ・ユニセフ『私たちがつくる持続可能な世界～SDGsをナビにして～』
- ・21世紀国語教育研究10月例会—合意形成に向け、主体的に考えを広げ話し合う指導法の工夫—『話し合い学習プログラム1～6』

※ 過去の研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどをJICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>